

【後半】

その事業で、何が変わる？

総合計画と事業をつなぐロジックモデル入門

後半 計画から必要な変化を考え、指標へつなぐ

令和〇年〇月〇日

〇〇〇〇

3. 計画・取組・目指す状態

後半は計画に近づくために、保護者にどんな変化が必要かを考える

前半：交流会から保護者の変化への道筋を点検した

後半：計画に近づくために必要な変化を見渡し、取組の役割を考える

- 1

全体像をみんなで確認する
- 2

各自は一つの変化について、なぜ必要か、どんな取組が役立ちそうかを考える
- 3

その変化を見る指標を一つ選ぶ
- 4

最後に、自分の仕事で確認することを一つ残す

計画				
ア		交流会		A ☐ ☐ ☐
イ		案内		B ☐ ☐ ☐
ウ		利用相談		C ☐ ☐ ☐
②	④	⑤ ペアの後	⑥	⑦
職場の一步			相手・情報	

手元の後半の用紙：左に現在の状況、中央に取組、右に目指す状態

上の計画と、左のア・イ・ウの状況を読む

計画の抜粋（架空）
「安心して子育てできるまちを目指します。
子育て家庭が孤立せず、
身近な人や必要な支援とつながれる地域づくりを進めます。」

- ア

転入後、近くに子育ての悩みを話せる保護者仲間がない
- イ

子育てで困っているが、どこへ相談すればよいか分からない
- ウ

支援を利用したいが、自分が対象になるか、
どう申し込むか分からず、利用できていない

まだ一つを選ばなくて構いません

計画

ア	交流会	A	☐ ☐ ☐
イ	案内	B	☐ ☐ ☐
ウ	利用相談	C	☐ ☐ ☐

②

④

⑤

⑥

⑦

ペアの後

職場の一步

相手・情報

手元の後半の用紙

この保護者たちがどうなれたら、計画に近づきそう？

計画の抜粋（架空）

「安心して子育てできるまちを目指します。
子育て家庭が孤立せず、身近な人や必要な支援とつながれる地域づくりを進めます。」

「子育て家庭が孤立せず」

「身近な人や必要な支援とつながれる」

左のア・イ・ウの保護者がどうなれたら、この姿に近づきそう？

30秒ほど考えてみてください

右のカードの【ア】 【イ】 【ウ】 に丸を付ける

右のA～Cを読み、その状態を目指したい左の状況の記号
【ア】 【イ】 【ウ】 に丸を付けます
複数に丸を付けても構いません

A 話せる仲間がいる

B 相談先を知っている

C 支援を利用できる

知っているても使えない場合がある —— BとCは違う状態です

計画				
ア		交流会	A ☐ ☐ ☐	
イ		案内	B ☐ ☐ ☐	
ウ		利用相談	C ☐ ☐ ☐	
②	④	⑤ ペアの後	⑥	⑦
職場の一步			相手・情報	

手元の後半の用紙

どの記号に丸を付けましたか。その理由は？

丸は一つでなくて構いません

計画				
ア		交流会		A ☐ ☐ ☐
イ		案内		B ☐ ☐ ☐
ウ		利用相談		C ☐ ☐ ☐
②	④	⑤ ペアの後	⑥	⑦
職場の一步			相手・情報	

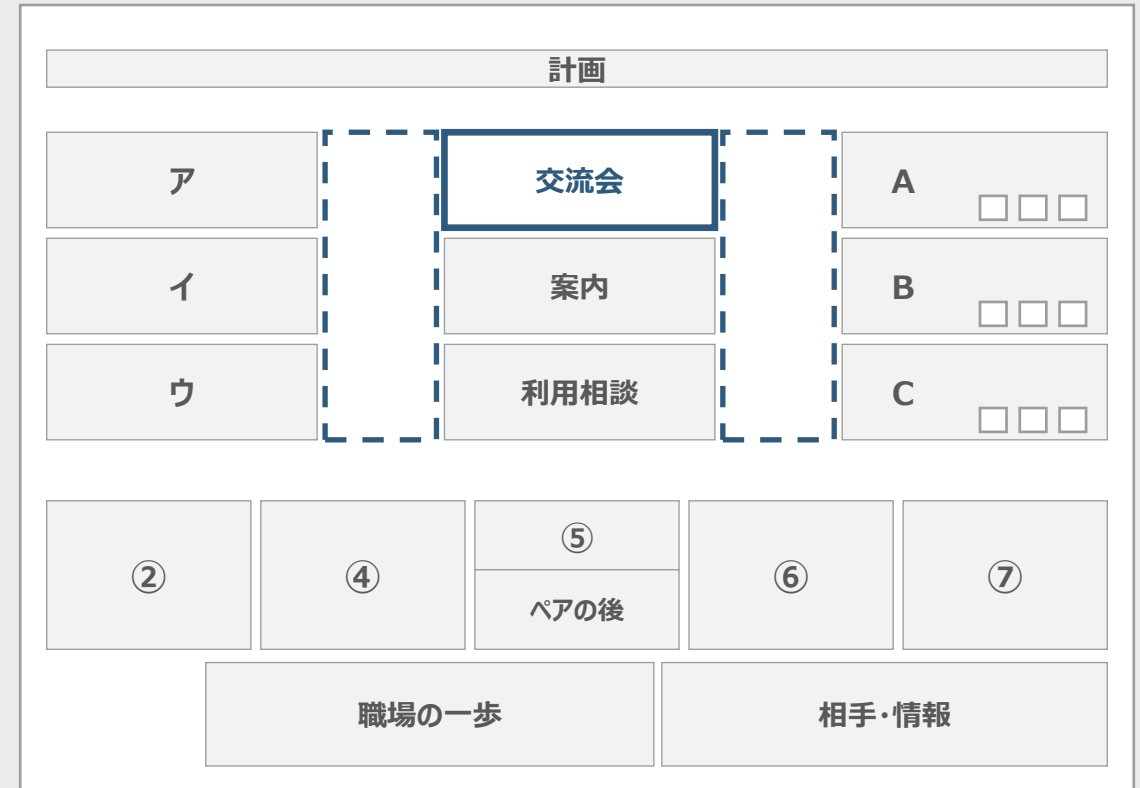
手元の後半の用紙

親子交流会を通る二本の線を描く

前半の道筋を思い出してください

左の状況 → 交流会、交流会 → 右の状態へ、二つの余白に線を引きます

左右のカードを直接結ぶ線は引かない



手元の後半の用紙

前半の交流会は、ア → 交流会 → A の道筋

ア 転入後、近くに子育ての悩みを話せる保護者仲間がない



親子交流会



A 子育ての悩みを話せる身近な保護者仲間がいる

計画の「子育て家庭が孤立せず」「身近な人や必要な支援とつながれる」に関わりそう

計画				
ア		交流会		A □ □ □
イ		案内		B □ □ □
ウ		利用相談		C □ □ □
②	④	⑤ ペアの後	⑥	⑦
職場の一步			相手・情報	

手元の後半の用紙

3. 計画・取組・目指す状態

ほかの手段も考えると、選ぶ理由を説明できる

周りの人

「目指す状態には賛成。
でも、ほかの方法もあるのでは？」



なぜこの取組を選びたいかを、説明・相談する材料
になる

この後の作業

- 1 ほかの取組も線で結ぶ（全部を結ばなくてよい。複数のつなぎ方があってよい）
- 2 考えたい一組を選ぶ
- 3 その組の右の状態をどう確かめるか考え、人数や割合などの指標で表す

ほかの取組も結び、★の一組で②④⑤を書く

目的	計画に必要な変化と取組を、理由を付けてつなぐ
取り組むこと	ほかの二つの取組も線で結ぶ → 考えたい一組の二本に★、左の「対象」・中央の③・右の①に○ → ②④⑤を一言ずつ
終わりの目安	★の一組について、②④⑤が一つずつある。全ての線の理由は書かない
時間	個人で約20分

制度を調べたり、新しい取組を考えたりする必要はありません。まだ判断できない組合せは、結ばなくて構いません

★の一組を選び、左・③・①に丸を付ける

考えたい一組の二本の線に★

左の「対象」・中央の③・右の①に○

選んだ左の記号が、右の丸に含まれているか見る（ほかの丸は残してよい）

② その状態が、計画のどの言葉に、どう近づくために必要か一言

書き方の型：
____という変化があれば、計画の「____」へ近づく

カードの文の書き写しは不要です

計画				
ア	★	交流会	★	A
イ		案内		B
ウ		利用相談		C
②	④	⑤ ペアの後	⑥	⑦
職場の一步			相手・情報	

手元の後半の用紙

④ 保護者ができるようになってほしいことを書く

職員がすること（中央のカード）



受けた保護者が、できるようになってほしいこと（④に書く）

この取組を受けた保護者は、何をできるようになりそう？

書き方の型：

保護者が（____が分かる／____できる）

④は、右の目指す状態に至る途中の変化です

計画				
ア		交流会		A ☐ ☐ ☐
イ		案内		B ☐ ☐ ☐
ウ		利用相談		C ☐ ☐ ☐
②	④	⑤ ペアの後	⑥	⑦
職場の一步			相手・情報	

手元の後半の用紙

⑤ この取組だけでは難しい人・場面を一つ書く

④ が実現しにくい人や場面は？

例えば

交流会へ参加しにくい人

案内を受け取れない人

相談に来られない人

届きにくい人や、途中で止まりそうな場面を考えます。解決策まで書かなくて構いません

計画				
ア		交流会		A ☐ ☐ ☐
イ		案内		B ☐ ☐ ☐
ウ		利用相談		C ☐ ☐ ☐
②	④	⑤ ペアの後	⑥	⑦
職場の一步			相手・情報	

手元の後半の用紙

ペアで、選んだ一組と②④⑤を説明し合う

目的	⑤で考えた難しさを、次の説明・相談へつなぐ
取り組むこと	選んだ一組、②計画との関係、④できるようになってほしいこと、⑤難しい人・場面の順に説明する。聞く人は問いかける
終わりの目安	二人とも話し、⑤の同じ欄に、工夫や別の方法で確認することが一言ある
時間	同じペアで10分

新しい施策を一から作る必要はありません。まだ分からないことは、確認したい点として残せます

聞く人は、二つを問いかける

一人目が説明

二人目が問う

二人目が説明

一人目が問う

対話

各自で⑤に一言

④の保護者の変化は、目指す状態（①）へどうつながりそう？

⑤で挙げた人にも届く工夫はできそう？ それとも、別の方法が必要そう？

最後に、⑤の同じ欄へ、確認することを一言足します

⑤の同じ欄へ、確認することを一言書く

工夫や別の方法で、
確認することを一言足します

解決策を完成させる必要はありません

全ての線に書き足す必要はありません

計画				
ア		交流会		A ☐ ☐ ☐
イ		案内		B ☐ ☐ ☐
ウ		利用相談		C ☐ ☐ ☐
②	④	⑤ ペアの後	⑥	⑦
職場の一步			相手・情報	

手元の後半の用紙

目指す状態に近づいているか、知りたい

喜んでもらえた？
楽しかった？

+

目指す状態に近づいている？
例：悩みを話せる仲間がいる？

★の組で丸を付けた、目指す状態（①）を見返す

④（途中の変化）と目指す状態（①）は、確かめる内容が違う。今回は目指す状態を確かめる

⑥ 誰に何を聞か、何の記録を見るかを書く

目的	目指す状態（①）が実現しているかを確かめる目印を一つ考える
取り組むこと	⑥に、誰に何を聞か・何の記録を見るかの案を一つ書く。その後、⑦に指標を一つ
終わりの目安	①→⑥→⑦が同じ状態を見ていると、一言で説明できる
書き方	「アンケートを取る」だけでなく、何を尋ねるかまで一言 目指す状態（①）の文を質問にして考えてもよい 確認の時期や詳しい聞き方は、今は決めなくてよい

確かめたいことを、人数や割合で表す —— 指標

⑥ 確かめたいこと

「必要な支援を利用できましたか」と聞く



⑦ 指標

支援を必要とした保護者のうち、利用できたと答えた人の割合

指標の中で、特に大事にして追っていくものを KPI と呼ぶ

自分たちの取組が前に進んでいるかを確かめ、次の工夫を考えるために使えます

⑦ 候補も参考に、指標を一つ選ぶか書き換える

候補の位置づけ	指標の候補
実施状況を示す比較用	交流会の参加人数
Aの途中の変化を示す比較用	「会で初めて話す保護者と話せた」と答えた参加者の割合
A	「子育ての悩みを話せる身近な保護者仲間がいる」と答えた対象者の割合
B	「自分の困りごとをどこへ相談できるか分かる」と答えた対象者の割合
C	支援を必要とした対象者のうち、「必要な支援を利用できた」と答えた人の割合

候補と同じ文でも、書き換えても構いません

その数字で、保護者が「目指す状態」になったと分かる？

- 1 参加人数だけでは、話せる仲間がいるかは分からない
- 2 相談先を知る（B）ことと、支援を利用できた（C）ことは違う
- 3 参加した人・回答した人に聞く案では、分かるのはその人たちの範囲まで

数字だけで、取組の効果や地域全体の状態を断定しない

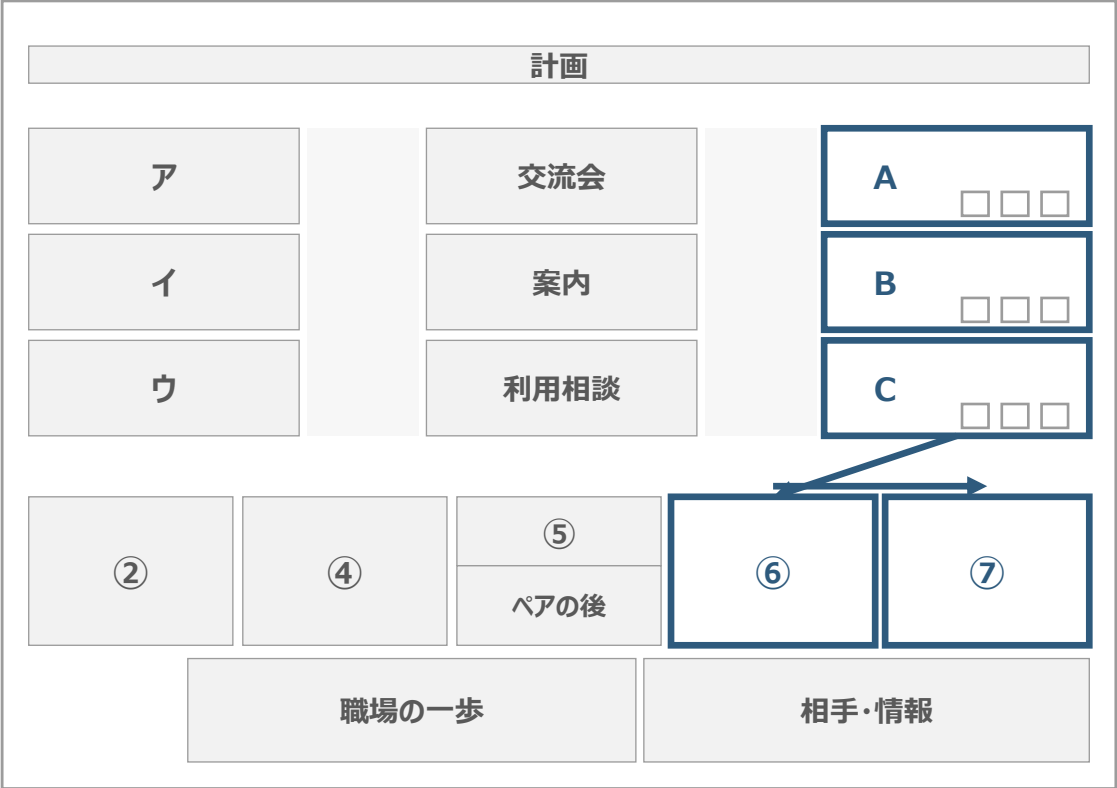
届いていない人をどう把握するかは、確認したい点として⑥に短く添えても構いません

①→⑥→⑦を、指でたどって確かめる

知りたい状態・聞くこと・見る数字が、そろっていますか

⑥で尋ねることと⑦の数字がどう対応するか、一言で説明してみる

人数や満足度だけにずれていたら、①を見る候補へ戻って直す



手元の後半の用紙

考え方の例 —— 選んだ一組ごとの一例

選んだ一組	④できるようになってほしいこと	⑤難しい人・場面 → ペア後の一言	⑥確かめ方案 → ⑦指標の例
ア → 交流会 → A	初めての相手とも話し、悩みや経験を伝え合える	平日午前に来られない人 → 別の届け方があるか担当者に聞く	対象者に話せる仲間がいるか聞く → 仲間がいると答えた人の割合
イ → 案内 → B	案内の一覧の見方・探し方が分かる	案内を受け取れない人 → 届け方を担当者に確認する	対象者に相談先が分かるか聞く → 相談先が分かると答えた人の割合
ウ → 利用相談・申込み支援 → C	条件・申込み方が分かり、必要な申込みを進められる	相談に来られない人 → 別の相談方法があるか担当者に聞く	必要な支援を利用できたか聞く → 支援を必要とした対象者のうち、利用できたと答えた人の割合

一例です。三つの取組で全ての手段を網羅したわけではなく、交流会が最善と確かめたわけでもありません。

4. 自分の仕事へ

ほかの方法も考えると、なぜこの取組かを説明できる

「交流会をやりたい」と説明したとき

目指す状態に賛成してくれている上司や同僚も、「ほかの方法ではどう？」と考えることがある



説明・相談できること

誰に届くか

なぜこの取組を選びたいか

別の方法と組み合わせたいか

取組を行えば、必ず変化するわけではありません。★以外の線も、まだ確かめていない仮説です

⑤で考えた難しい人や場面と、
ペアで話して確認したくなったことを
一組だけ教えてください

記録を見直し、必要なら一か所書き足す

今の説明や他の方の例を聞いて、書き足したいことがあれば、その欄へ一か所

特になければ、見直すだけで構いません

新しい欄や線は増やしません

計画				
ア		交流会		A ☐ ☐ ☐
イ		案内		B ☐ ☐ ☐
ウ		利用相談		C ☐ ☐ ☐
②	④	⑤ ペアの後	⑥	⑦
職場の一步			相手・情報	

手元の後半の用紙

職場の一步 —— 自分の仕事で確認すること

自分の仕事で確認すること

聞く相手または見る情報

手がかり（どれか一つ）

目指す変化の共有

ほかの方法

変化の確かめ方

⑤や⑥⑦で考えたことも使えます。事例の答えではなく、ご自身の仕事で書きます

計画				
ア		交流会		A ☐ ☐ ☐
イ		案内		B ☐ ☐ ☐
ウ		利用相談		C ☐ ☐ ☐
②	④	⑤ ペアの後	⑥	⑦
職場の一步			相手・情報	

手元の後半の用紙

アンケートにご協力ください

最初に思い浮かべた、周りと進めたい仕事を思い出してください

目指すこと、道筋、ほかの方法も考えて伝えと、
上司や同僚に理解や協力をしてもらいやすくなります

その仕事を一緒に前へ進めるために、使ってみてください

アウトカムの段階と指標

今日の事例に当てはめた一例（どの段階に当たるかは、事業の目的によって変わる）

アウトプット	交流会の参加人数
初期アウトカム	会で初めての保護者と話せた（④ 途中の変化）
中期アウトカム	悩みを話せる保護者仲間がいる （① 目指す状態。⑦でこの状態を確かめる）
長期アウトカム	「子育て家庭が孤立せず」に近づく（計画の目指す姿）

出典：文部科学省 大臣官房政策課 政策推進室「『ロジックモデル』作成マニュアル」（2023年3月） p.3、p.18～19の考え方をもとに作成

段階の分け方の目安	
・時間：早く現れる変化ほど初期 ・影響：事業が直接もたらす変化は初期。ほかの要因も関わる変化は中期・長期 ・初期アウトカムの指標は、事業がうまくいっているかを早めに確かめるのに役立つ	
KPIとKGI（主に企業で使われる言葉）	
KGI	最終的な目標をどこまで達成したかを見る指標
KPI	そこへ向かう途中の進み具合を見る、特に大事な指標